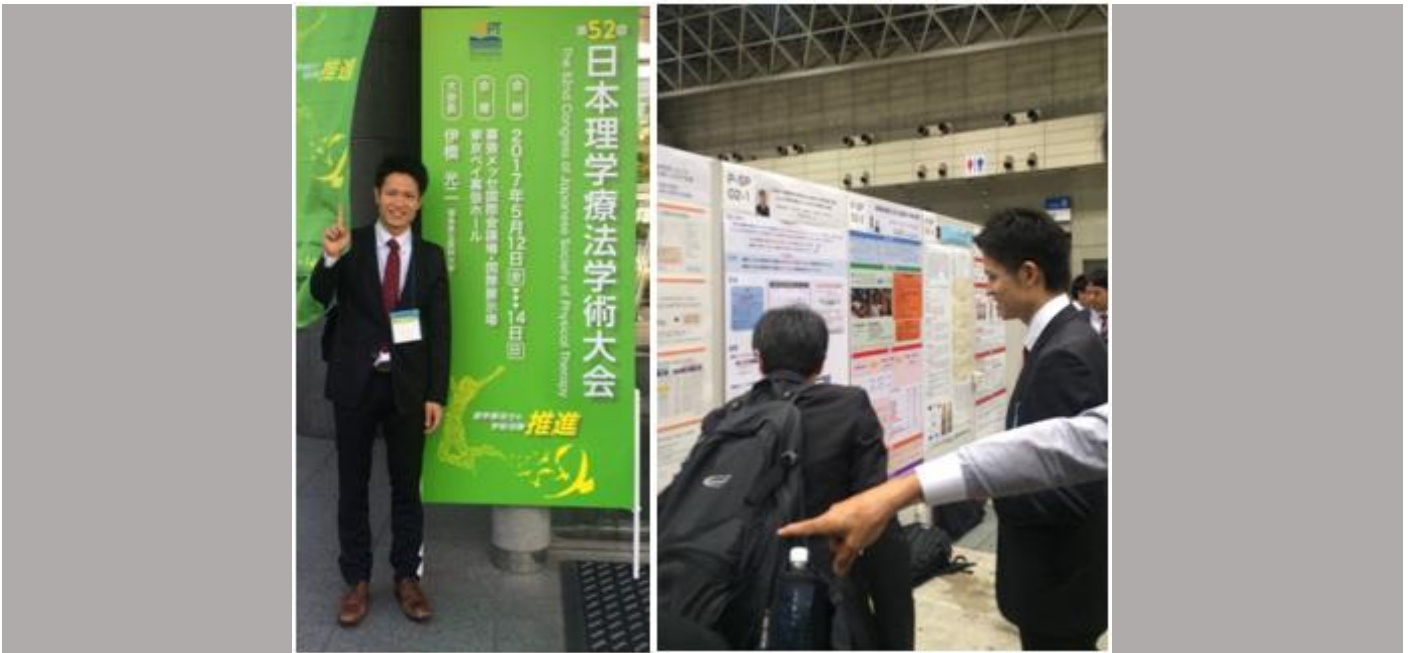


研究発表

印象記

南川整形外科病院 理学療法士 西村 勇輝

第 52 回全国理学療法学術大会に参加して



私は千葉県にある幕張メッセで行われた、全国の理学療法士が集う第52回全国理学療法学術大会に参加させて頂きました。千葉県といえばプロ野球の千葉ロッテマリーンズの本拠地であり、福岡ソフトバンクホークスの大ファンである私は敵地に乗り込む気持ちで学会に向かいました。

今回は「成長期の投球障害肩における上腕骨骨端線離開が治療経過に及ぼす影響」というテーマで発表させて頂きました。

上腕骨骨端線離開という病態は成長期に起こる骨の障害であり少年野球肩（Little Leaguers Shoulder）と言われます。主に野球などのオーバーヘッドスポーツアスリートでは、投球という繰り返しの動作が肩にストレスを与えるため、過剰な球数の増加や、コンディション（体の柔軟性や筋力）不良が原因で発生頻度を高めると報告されています。

当院では上腕骨骨端線離開と診断された野球少年に対しても、投球禁止を行うだけでなく全身のコンディションを改善することによって、投球時に生じる痛みの消失と再発予防に取り組んでいます。その結果、今回の調査では、過去2年間に上腕骨骨端線離開と診断された野球少年は、全例が痛みのない全力投球を獲得することができていました。この結果をもとに、学会当日はたくさんの理学療法士の方々とディスカッションすることができ、とても有意義な時間となりました。

今後も研究調査を行い、たくさんの情報を発信していきたいと思います。